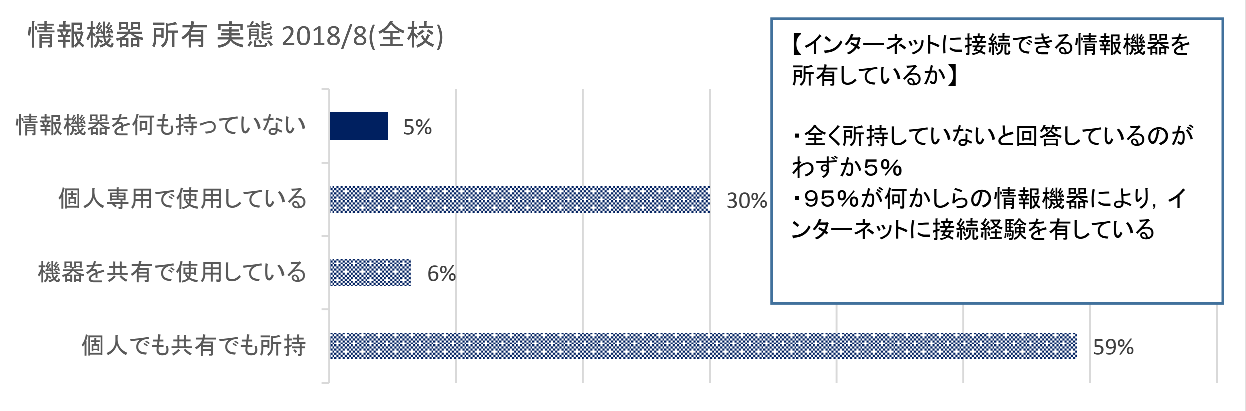
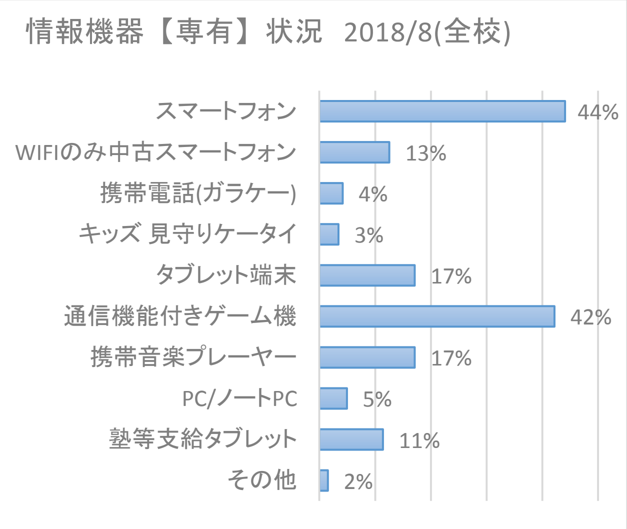
帯広市立帯広第二中学校
情報機器所有状況とインターネット利活用調査：結果

2018/08/16 調査　1回目



【インターネットに接続できる情報機器を所有しているか】

・全く所持していないと回答しているのがわずか5%
・95%が何かしらの情報機器により，インターネットに接続経験を有している

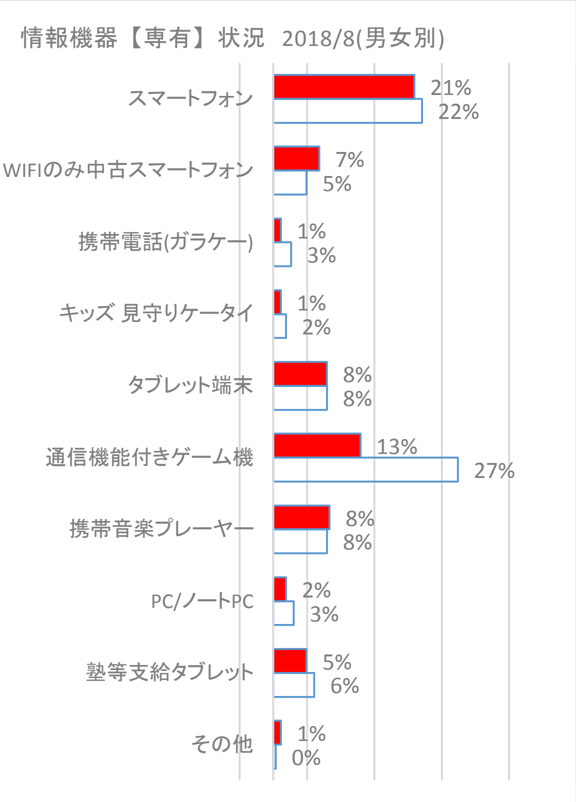


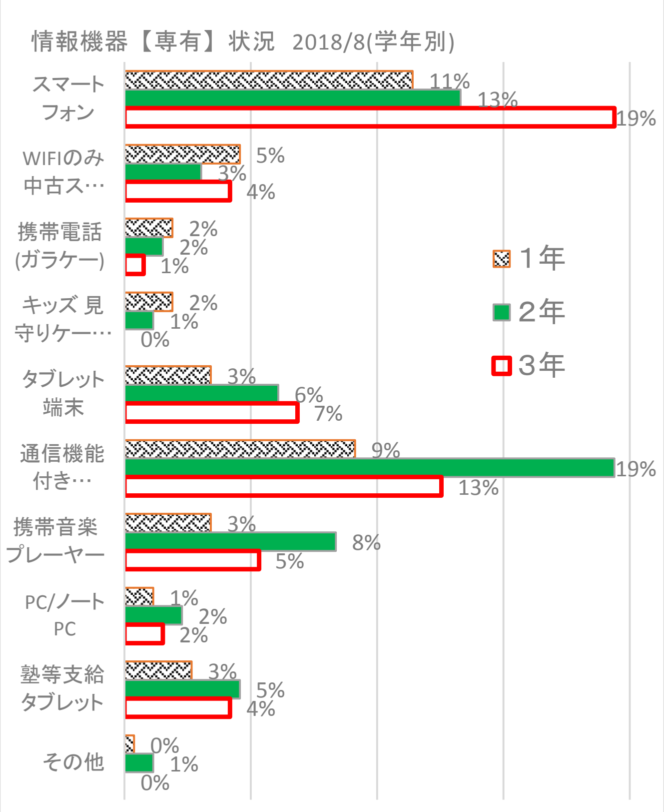
【個人で専有している機器について】
・本校生徒の8月現在，スマートフォンを個人で所有している割合は44%（携帯電話所持率 51%）

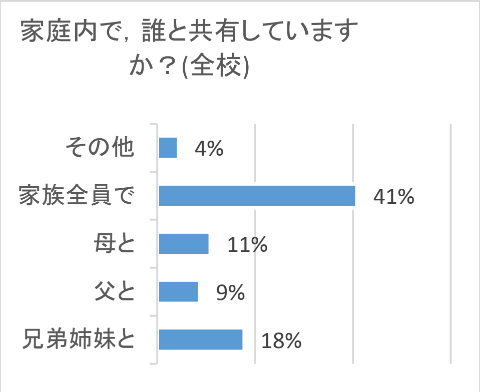
・次いで通信機能付きゲーム機は42%を個人で所有している
（男女別にみても、男子生徒のゲーム所有率の高さが女子の2倍）

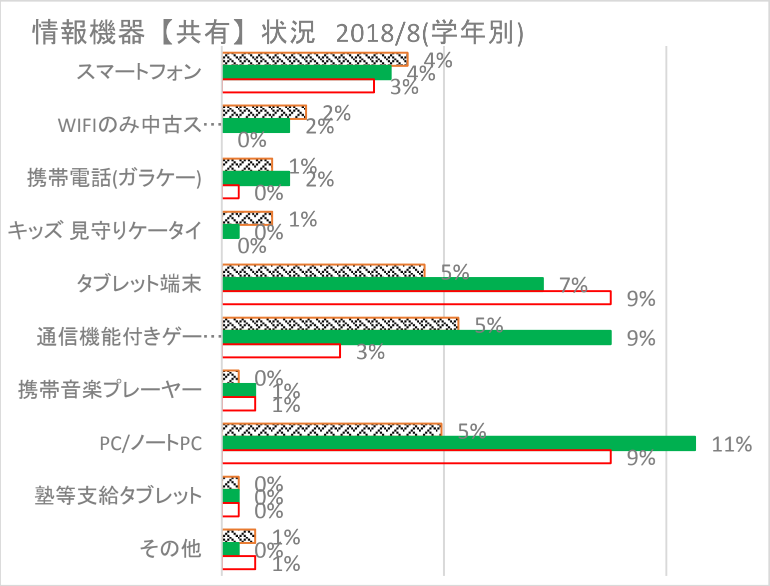
・タブレット所有率は高まりを見せ，PCの9倍

＜学年別＞
・中3生徒のスマートフォン所有率は高い
・中2のゲーム所有率の高さが特徴

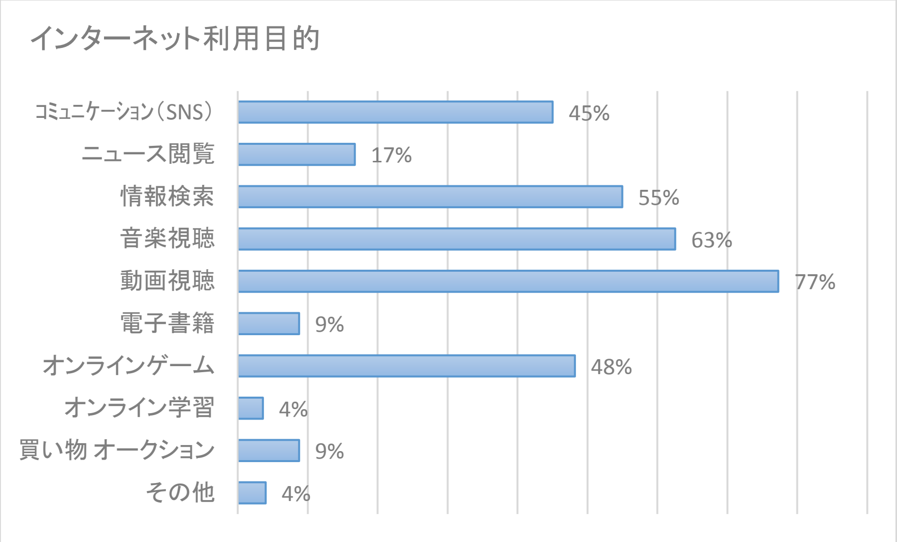






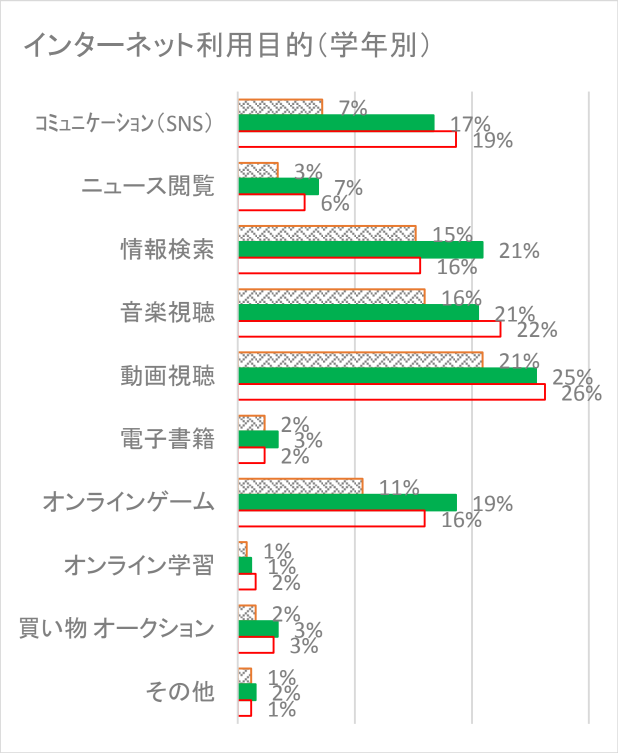


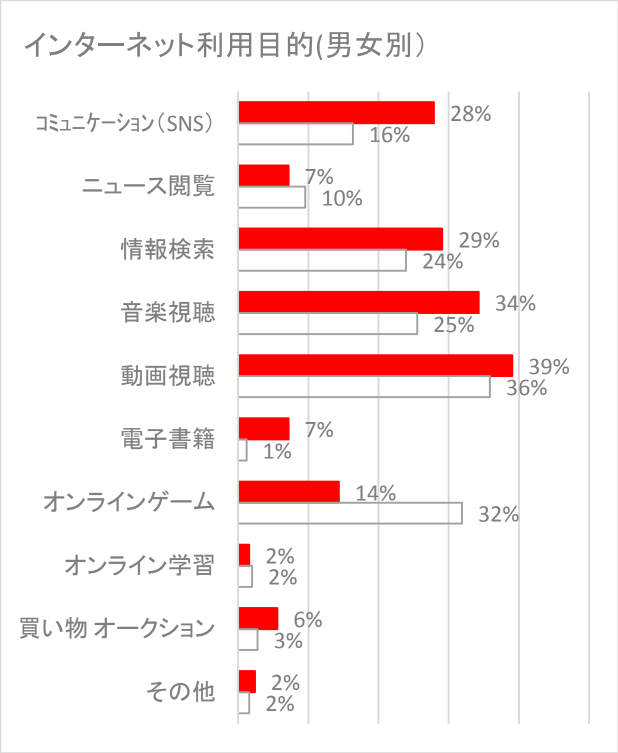
【共有している機器について】
・家族全員で共有している生徒が多く
・PC/ノートPCは共有率が高い
・次いで 「タブレット」「ゲーム機」は共有し

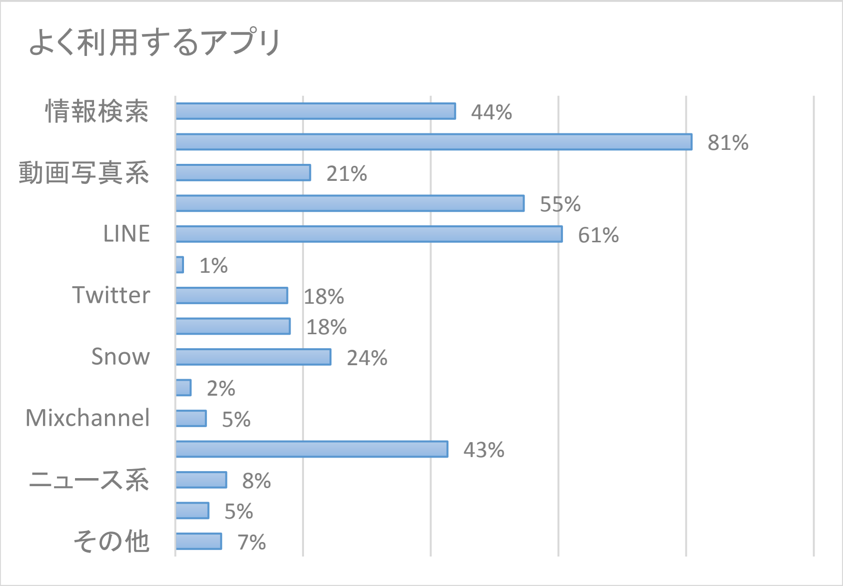


【インターネットの利用目的】
・『動画視聴』『音楽視聴』『コミュニケーション』『オンラインゲーム』
娯楽目的が中心
・情報検索の中心的なツールであることが見える

＜男女別＞から
・男子はオンラインゲーム
・女子はコミュニケーション
（女子の積極性がうかがえる）



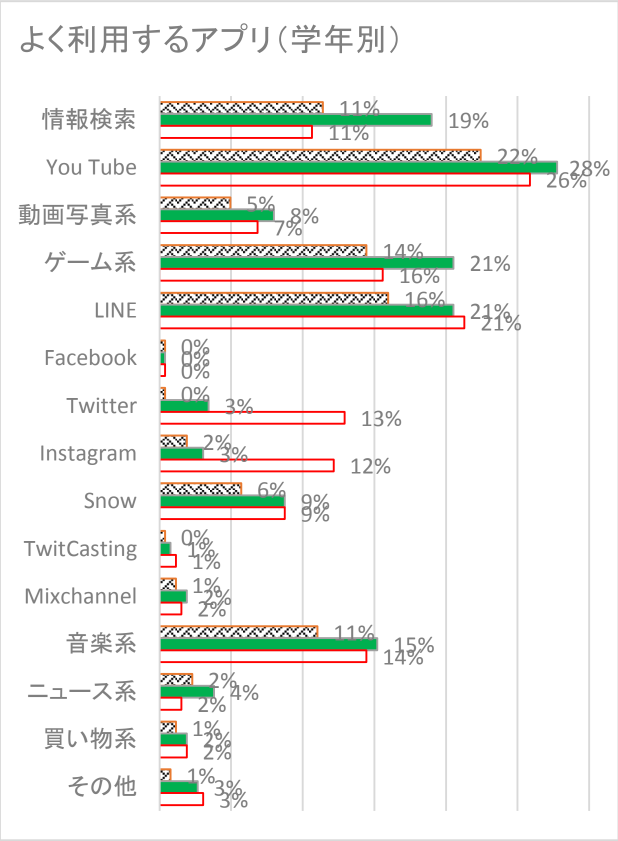


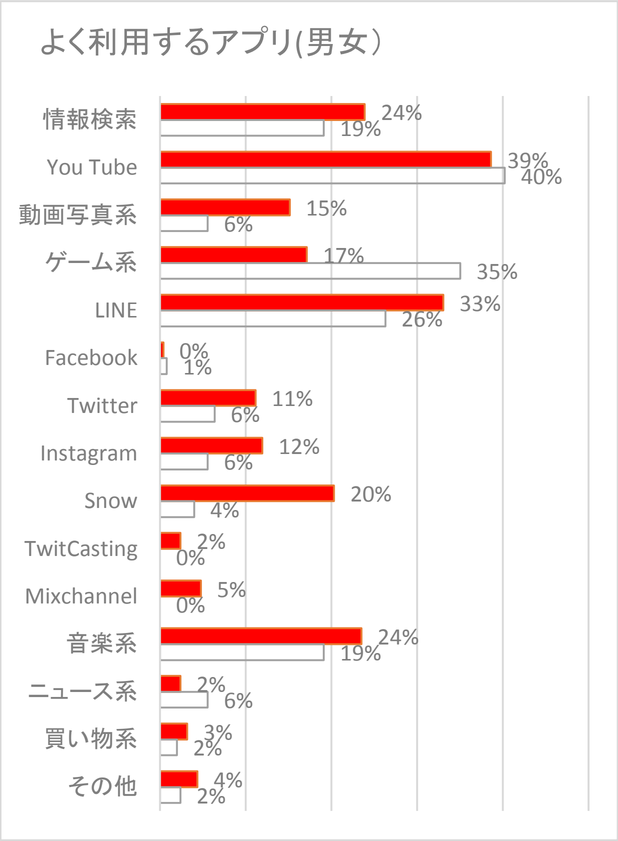


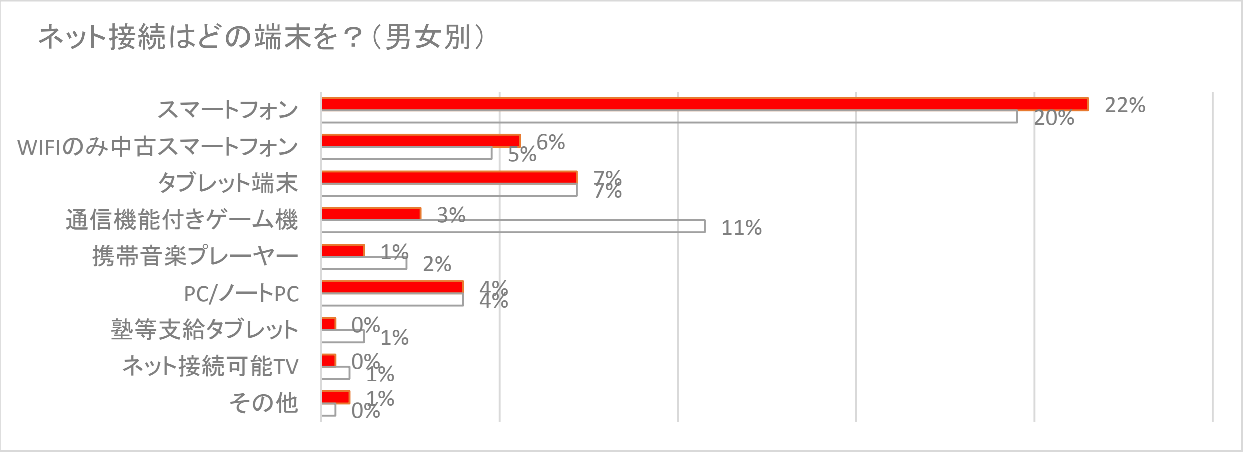
【よく利用するアプリ】
・『YouTube』『LiNE』『オンラインゲーム』
次いで『音楽』

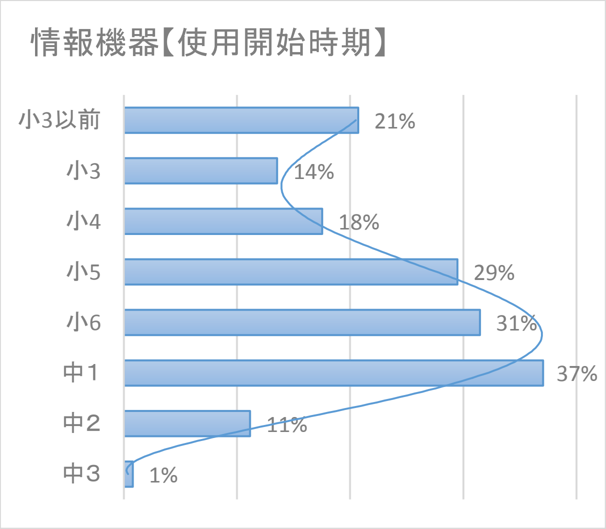
＜男女別＞
・男子はオンラインゲーム
・女子は積極的にコミュニケーションや写真アプリを利用している

【中心的な端末】
・スマートフォン，タブレットが圧倒的に多いことからも、『姿勢』『視力』の悪化が懸念される





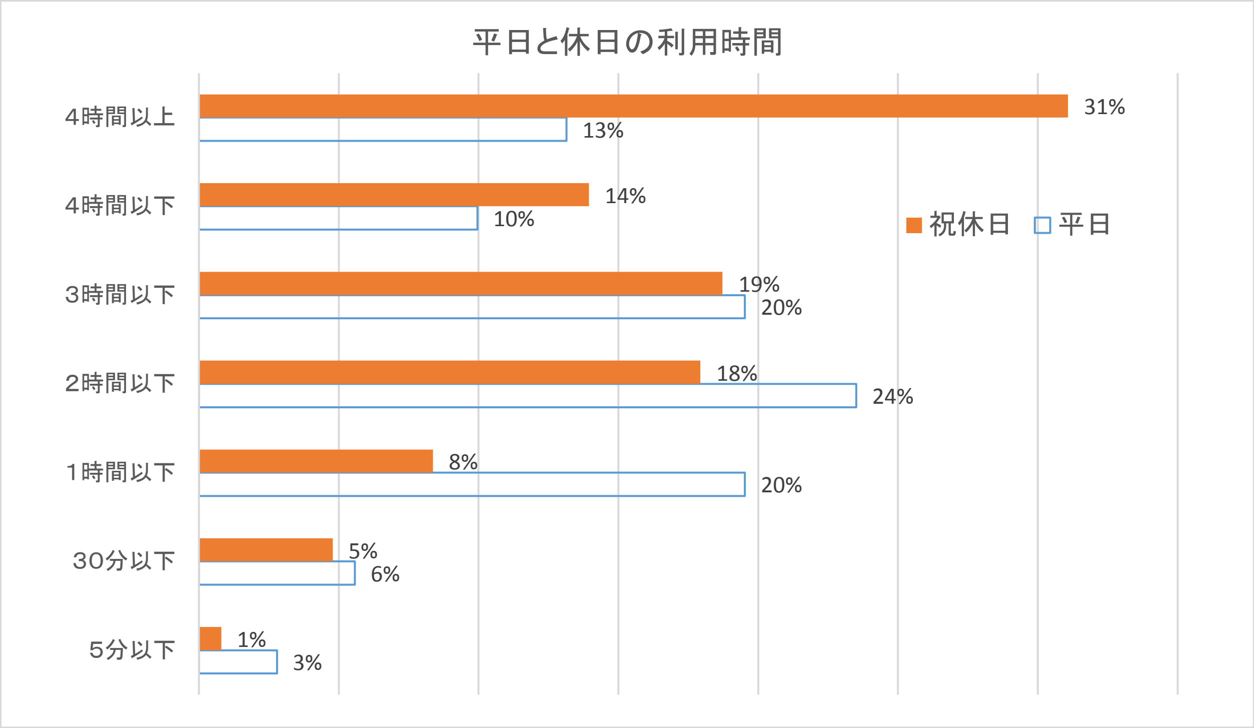


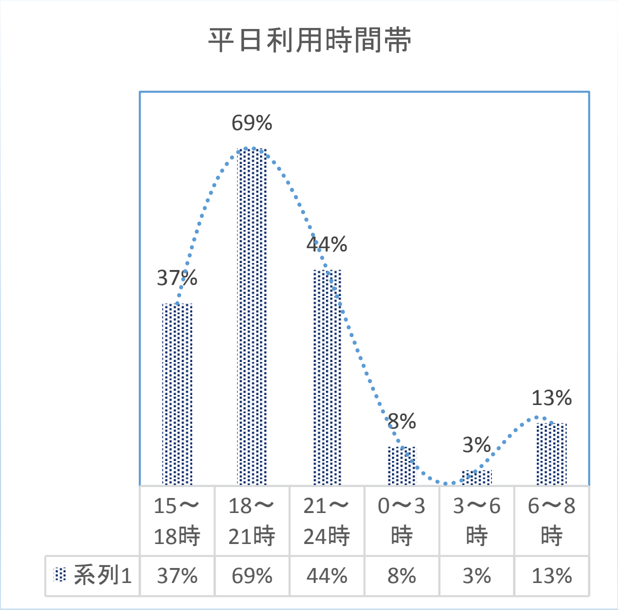


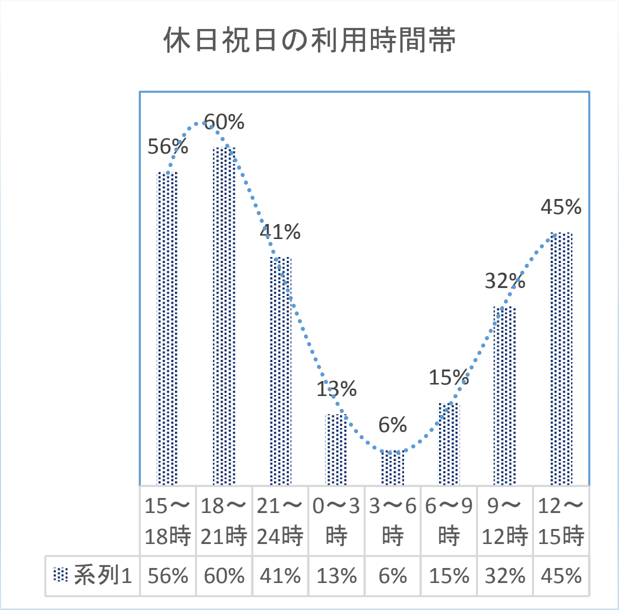
【情報機器の使用開始年齢】
・若年化が顕著な傾向として見ることができる
・小５以降から中１でピークを迎える

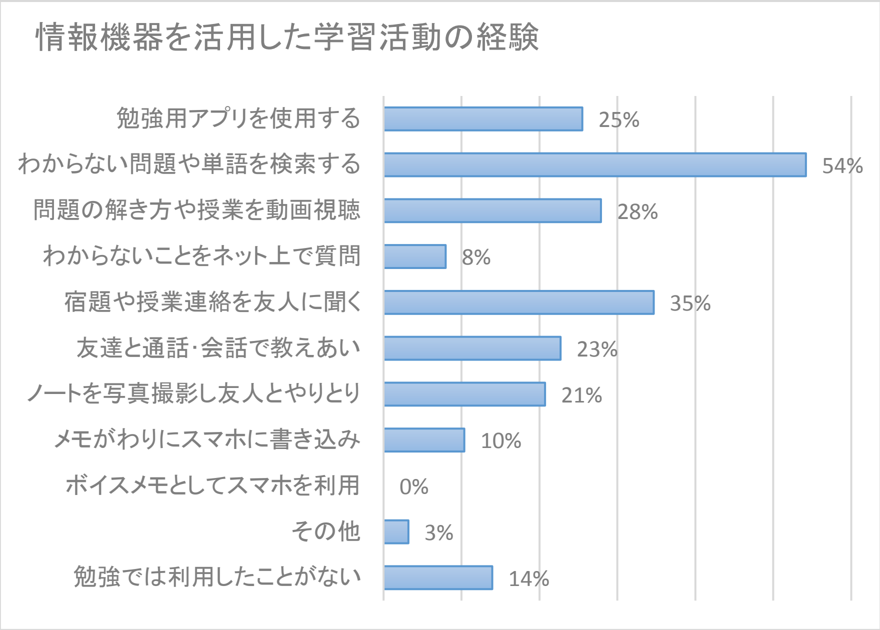
【利用時間と時間帯】
・平日で2時間程度
・祝休日で4時間程度　が触れていると予想される

・平日は　「帰宅後から就寝前」
・祝休日は「午後から遅い就寝時間まで」
　　　　といった利用傾向が見られる







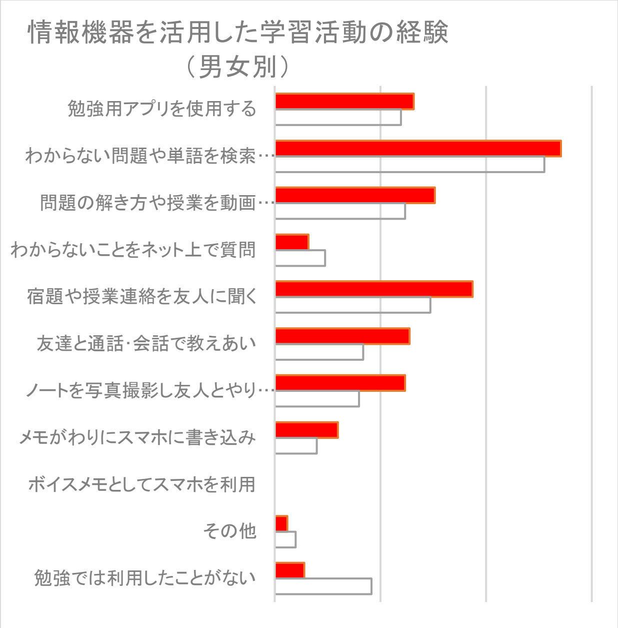


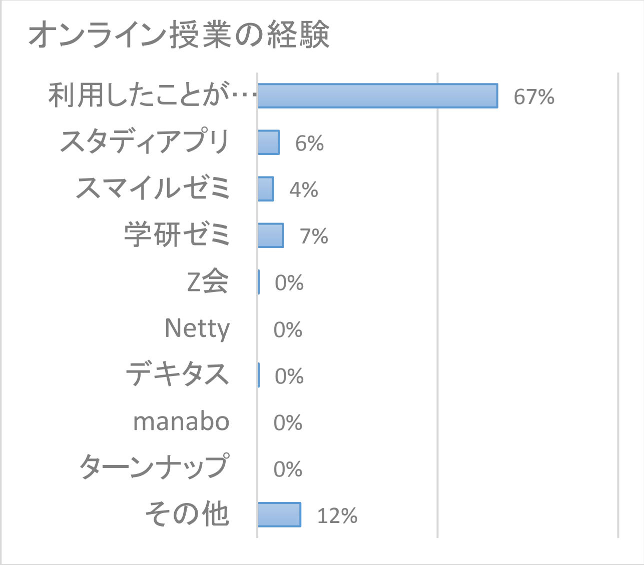
【情報機器の学習への利用】
・わからないことを手軽に検索している様子が見える
・『友人に聞く』が多いことからも学習利用もするが，コミュニケーションも取っている様子がうかがえる。

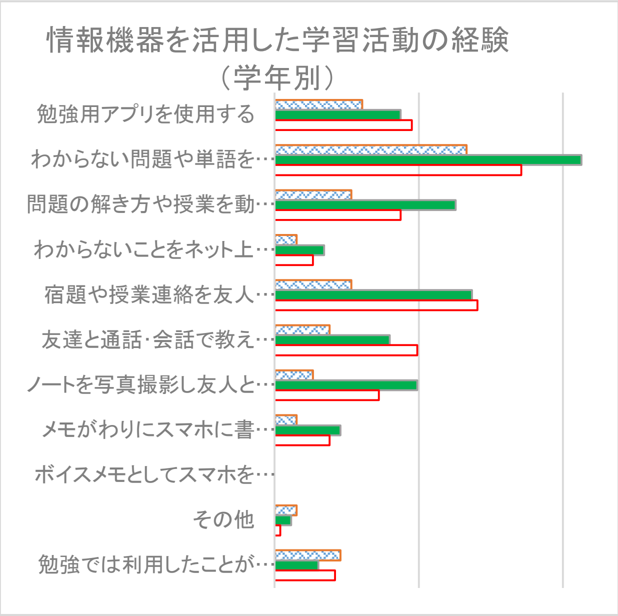
<u>これにより「集中した学習環境が整っている」とは言えない</u>

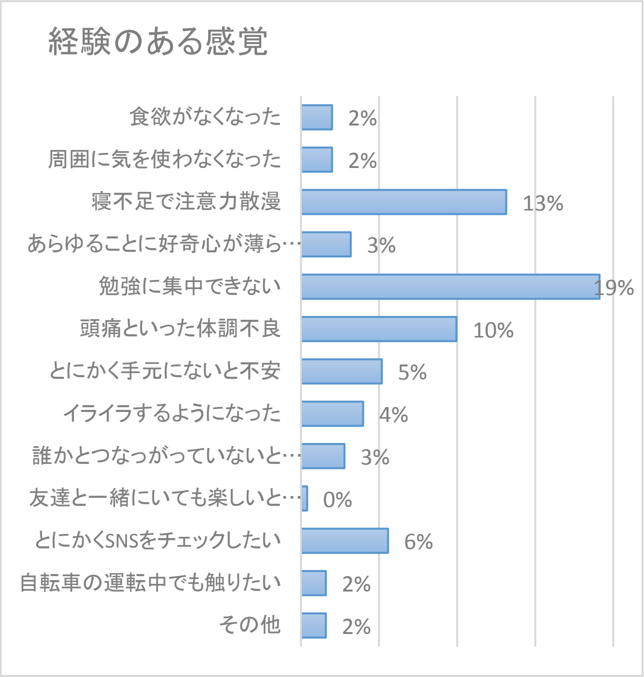
【オンライン学習】
・利用したことがない生徒が多い

【経験のある感覚】
・20%が集中できない
・寝不足，自制できない様子、体調不良　も見える



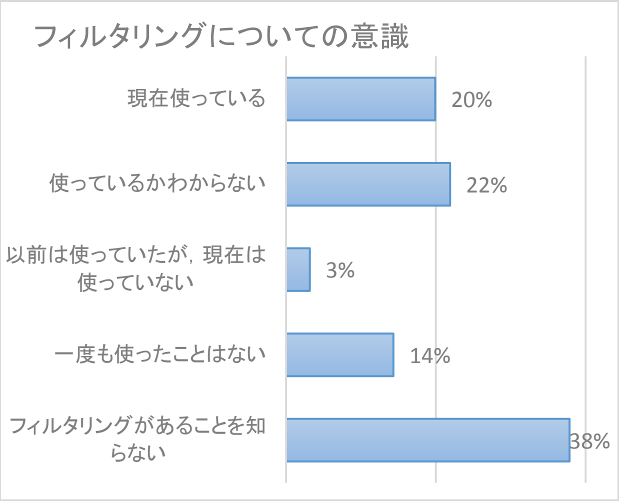


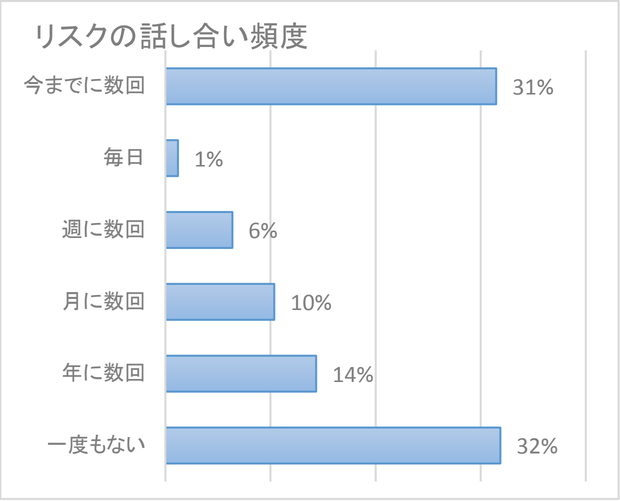


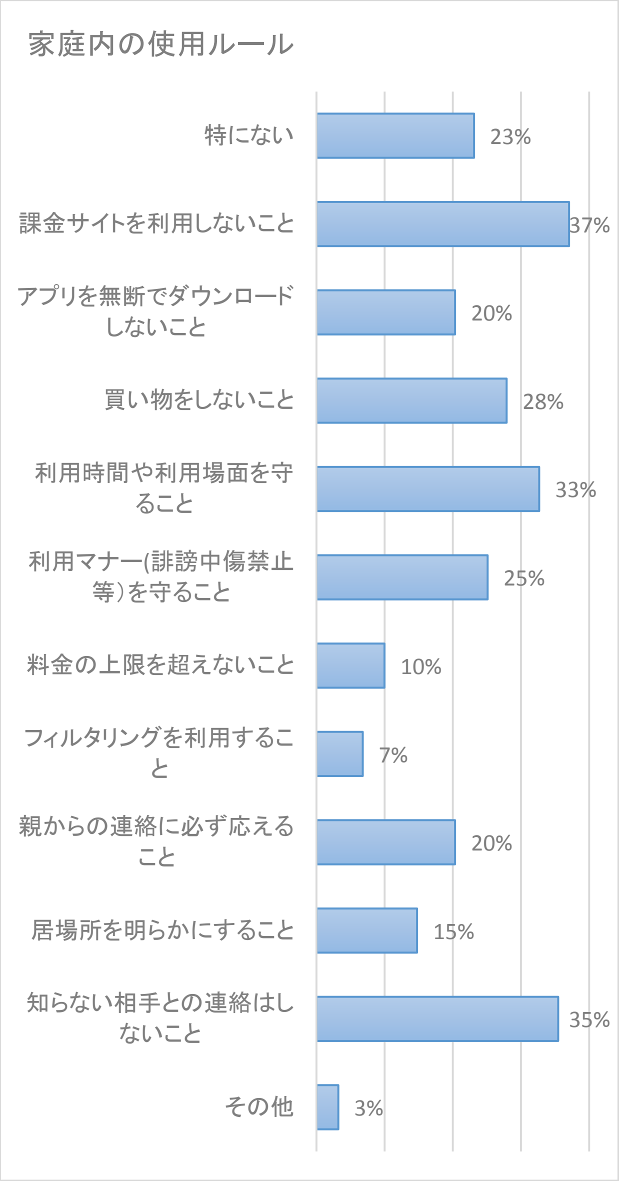


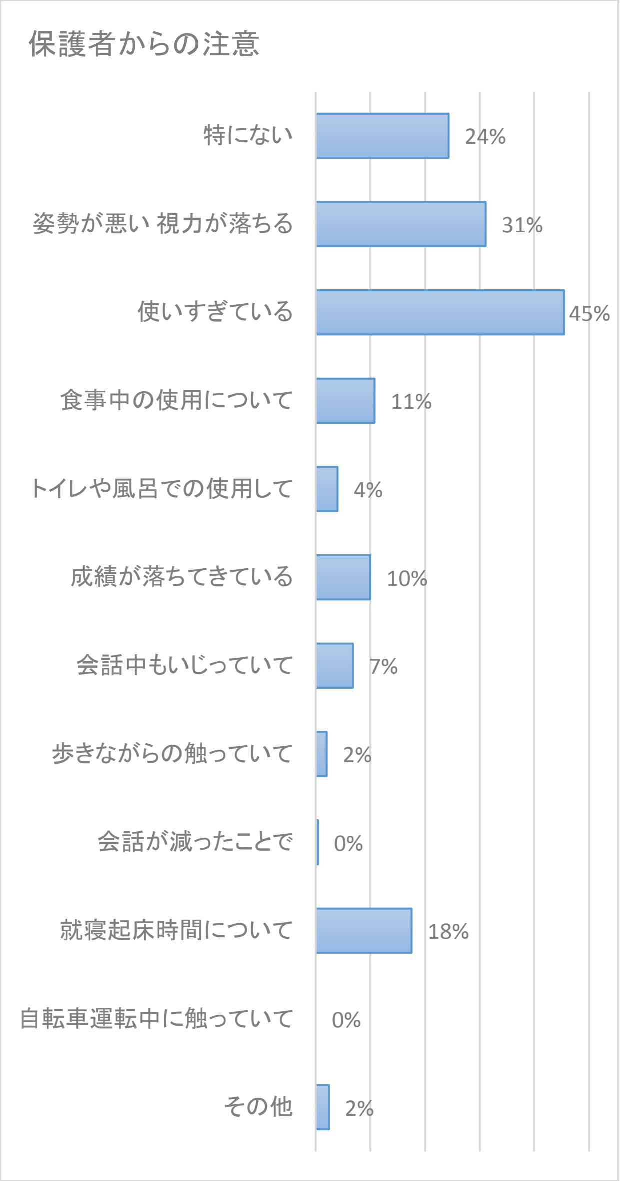
【危機管理について】
・フィルタリングについて「知らない」「わからない」と回答している　60％
・リスクについて会話したことは「一度もない」が　30％

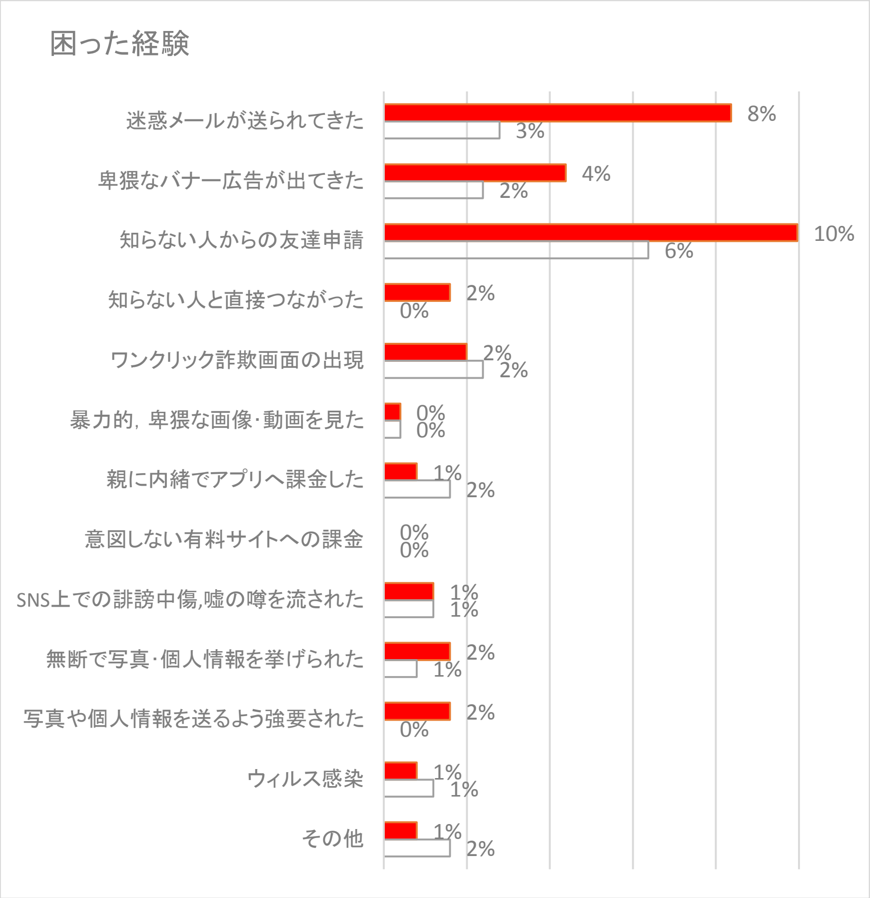
・保護者は「使いすぎ」を注意し，「姿勢」」「視力」「起床就寝時間」について懸念している様子がうかがえる





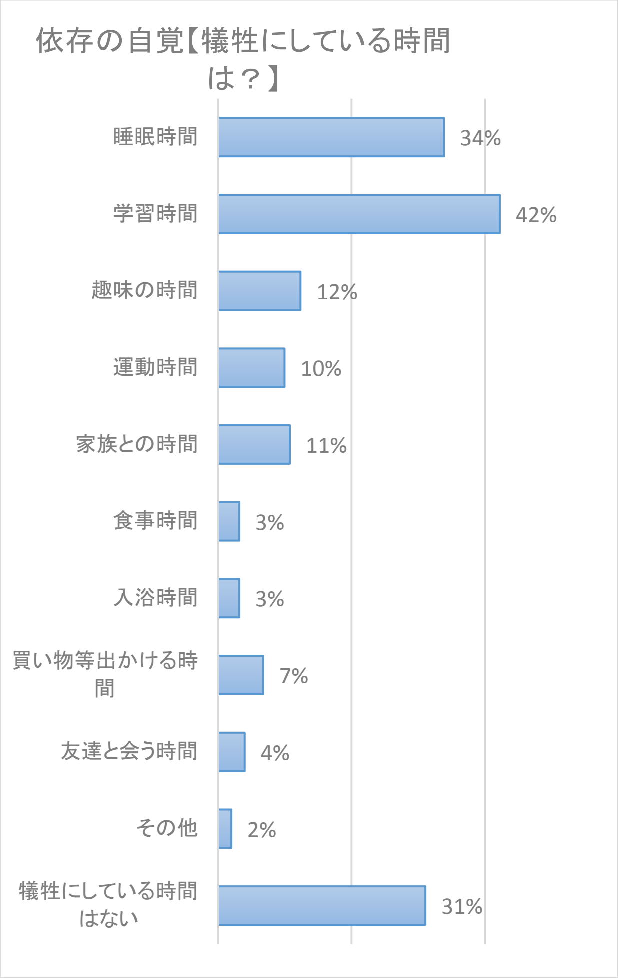
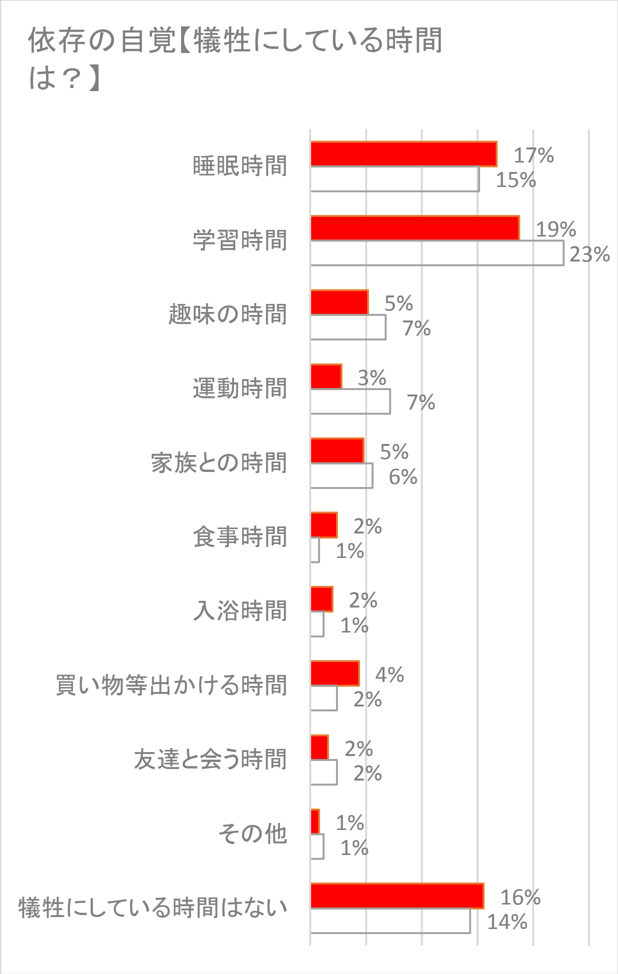






【トラブル】
・女子生徒がトラブルへのリスク(コミュニケーションが多い)を抱えているから，困った経験も多い。

・『友達申請』と『迷惑メール』に困り感を持っている生徒が多い

【依存への自覚】
・犠牲にしているのは『学習時間』と42%が回答している
(男子生徒の方が自覚している)

・「睡眠時間」を削る様子もうかがえる